

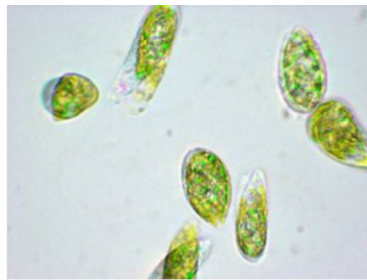
3R瓦版 (2月号)



ミドリムシが空を飛ぶ???

久しぶりにコラムを書かせていただきます。

このコラムが始まったのが、平成 25 年 8 月。その少し前頃から世間で騒がれていたミドリムシが世界を救う? という記事を見て、何??? と思ったのを今もよく覚えています。今も時々テレビや雑誌に出てくるミドリムシクッキーやらミドリムシラーメンなど、美容と健康にいいですよ〜と甘いささやきが聞こえてきて、ついつい青汁と同じように手を出したくなります。でも、ミドリムシと聞けば、あの理科の顕微鏡の中の映像が出てきますよね。まさにこれですよ。



このミドリムシがクッキーには 2 億匹、ラーメンになると 6 億匹入っている! と書かれていると想像してしまい、ちょっとためらってしまいます。

しかし、ミドリムシは、虫の一種ではなく、いわゆる藻の一種。体長はわずか 0.05mm と小さい単細胞生物で動きながら光合成できる、動物と植物のあいこの「微細網類」なんですよ。ミジンコだのとアメーバーだの比べて、顕微鏡をのぞいたのを思い出しました。

でも、このミドリムシが侮れない、59 種類もの豊富な栄養を持ち、太陽光と二酸化炭素で育ち、すごいスピードで成長します。この 2 年の間に、ミドリムシの食品やサプリメントは当たり前となり、これからはバイオ燃料としても注目を浴びています。バイオ燃料は、カーボンニュートラル（植物が原料に使われることで、植物は光合成により大気中の Co2 を吸収するので、燃やして排出しても Co2 は戻ったことになるということ）な燃料であり、その第三世代バイオ燃料として、注目を浴び始めています。（第一世代は、トウモロコシやサトウキビ、第二世代は、木くずや雑草）

ミドリムシのバイオ燃料は、原料から抽出した後の残渣も栄養食品や原料になるらしく、さらに他の燃料に比べて、軽いということで、注目したのがジェット燃料としての活用です。思わずホンマかいな〜と関西弁が出るほど、びっくりな夢のようなお話ですが、2020 年までに商用化を目指すかと年末にニュースで取り上げられました。

これが本当なら、資源がない日本にとっては、とってもありがたいお話であり、日本が苦しんでいる温室効果ガスの削減対策にもなってくれるのでは? と期待したいところです。